

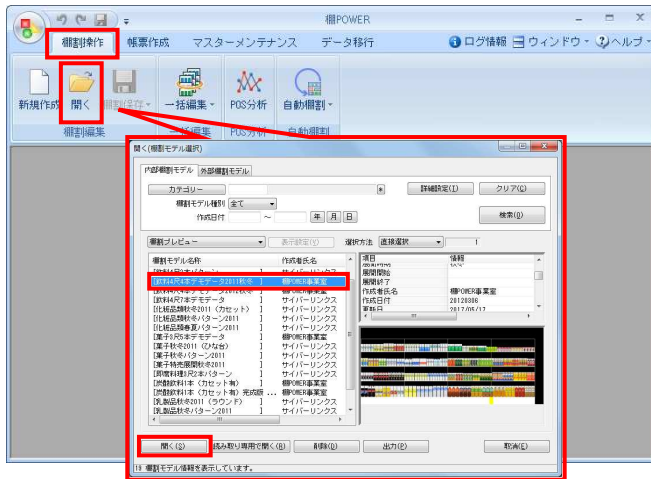
## ■ IV 棚割分析2 ～品揃えを検討するための分析機能～

ここでは棚割分析の機能から主に「商品の品揃えの検討」時にどんな分析機能が活用できるかを説明していきます。  
たとえば「価格帯グラフ」では価格帯別の商品の陳列ボリュームと売上のバランスが取れているか、「商品リスト（比較）」では市場のPOSデータを使用して取扱い漏れの商品がないかなどです。「クロスABC集計表」では棚割モデルに陳列している商品を売上数量と売上金額などの2つの切り口でABC分析を行ない、マトリクス形式で棚割全体のバランスを確認するなど、様々な視点から棚割の分析が可能です。

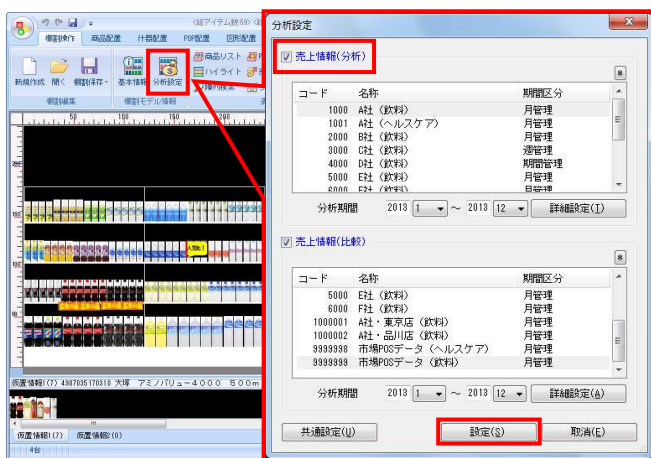
### ■ 価格帯グラフ

価格帯グラフでは、陳列商品を価格帯ごとにグループ分けし、価格帯別の品揃えや陳列ボリュームと売上のバランスを確認することができます。

売上と陳列ボリュームにギャップがないかを価格という切り口で確認し、拡販やカット商品の検討などを行なえます。

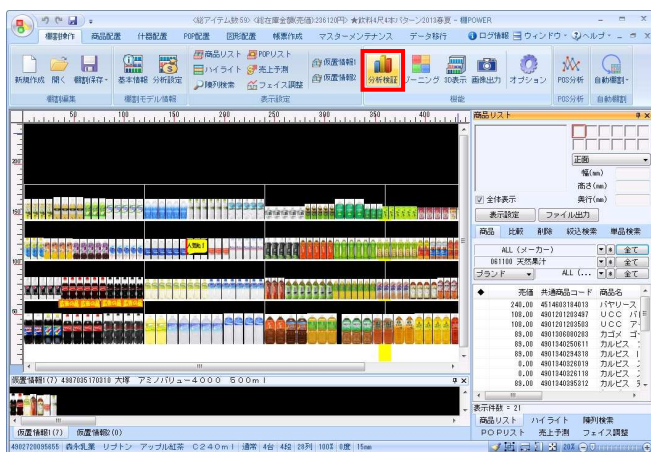


1. 「棚割操作」－「開く」より、分析したいモデルを選択し、棚割編集画面を開きます。

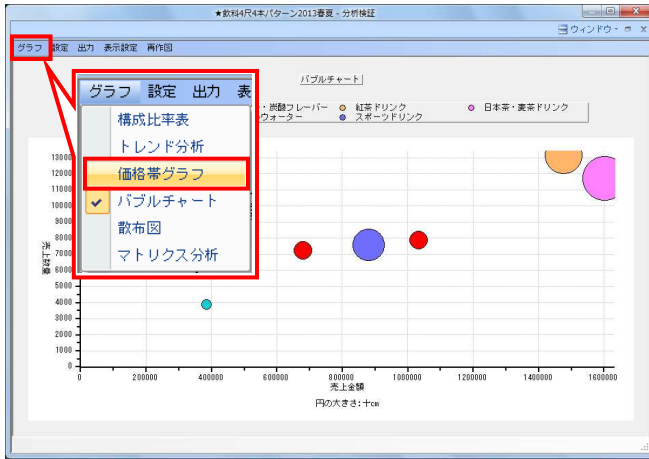


2. 「棚割操作」－「分析設定」を選択します。

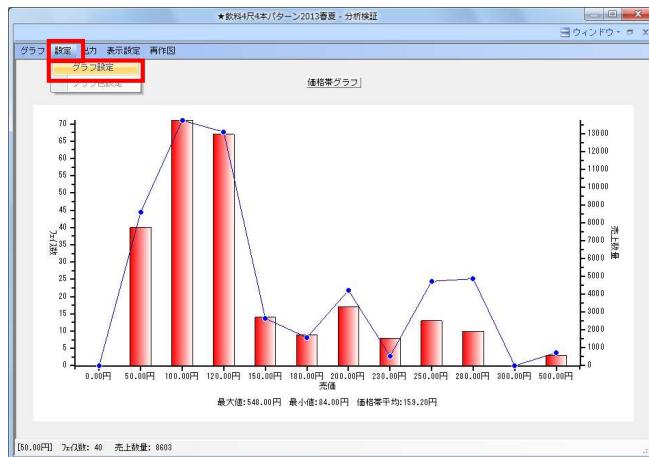
「売上情報（分析）」を有効にして、紐づけたい売上情報を一覧から選択して「設定」をクリックします。



3. 「棚割操作」－「分析検証」をクリックします。



4. メニューバー「グラフ」より「価格帯グラフ」を選択します。



5. 設定－「グラフ設定」をクリックします。

6. 棒グラフ、折線グラフに何を出力するかなどの設定を行ないます。

「出力値」

【棒グラフ】

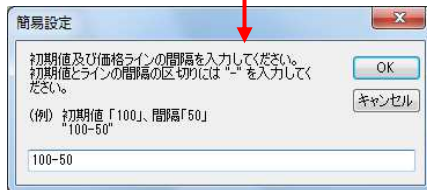
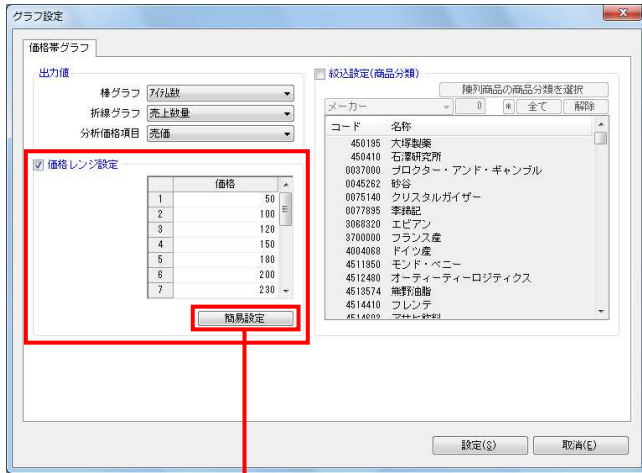
棒グラフで表示する項目を選択します  
今回は「アイテム数」を選択します

【折線グラフ】

折線グラフで表示する項目を選択します  
今回は「売上数量」を選択します

【分析価格項目】

分析したい価格の項目を選択します  
今回は「売価」を選択します



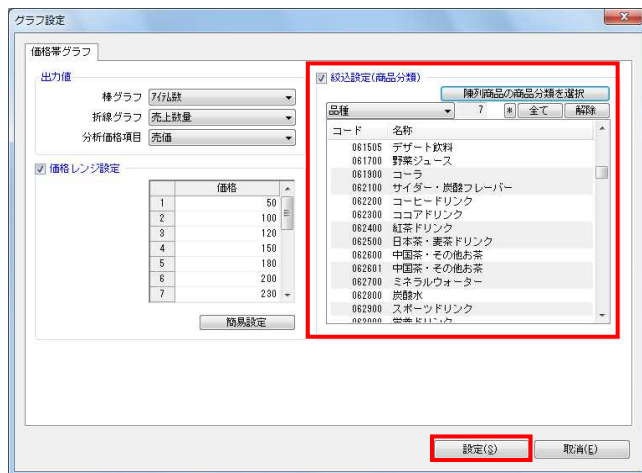
7. 「価格レンジ設定」  
有効にすると、右下の「価格帯指定リスト」を使用して、価格帯を設定します。無効にすると、各商品の「分析価格項目」で指定した価格を使用します（今回であれば「売価」を使用）

#### 「価格帯指定リスト」

グラフの横軸に表示する価格帯を設定します  
リストに任意の数値を直接入力することもできます

「簡易設定」をクリックすると「簡易設定」画面が表示されます  
価格帯の基準とする初期値と、どのくらいの間隔でグループ分けするのかを入力します  
例：初期値100円で50円刻みにグループ分けしたい場合  
「100-50」

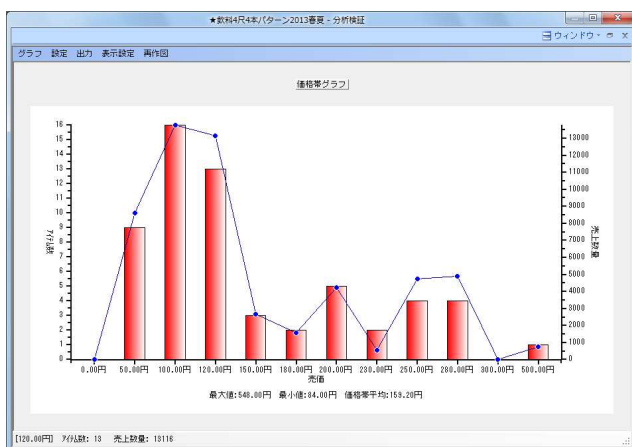
今回は、価格レンジ設定を有効にします。



8. 「絞込設定（商品分類）」  
有効にすると、分析の対象にする商品分類を絞り込むことができます。  
「[陳列商品の商品分類を選択]」をクリックすると、棚割モデルに陳列している商品分類が自動的に選択されます。  
無効にすると、棚割モデルに陳列している全商品を分析対象にします。

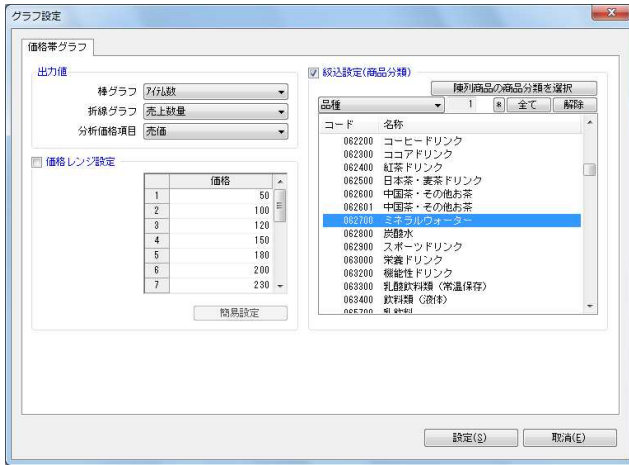
今回は、棚割モデルに陳列している「品種」を絞り込んで設定します。

設定が完了したら「設定」をクリックします。



9. 価格帯グラフが表示されます。  
棒グラフのアイテム数に対して、折線グラフの売上数量がどのくらいかを一目で確認することができます。

左図では、120円前後などの価格帯の商品が陳列数に対して売上数が多く上がっています。  
逆に、230円前後の価格帯の商品は、売上数が伸びていません。



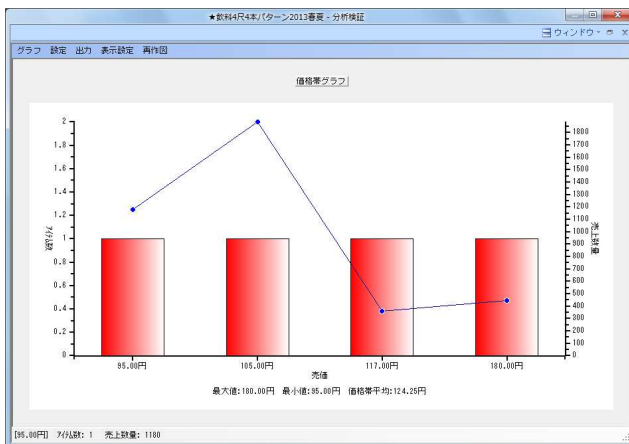
10. 分析例  
「棚割計画時の価格帯とお客様が実際に購入した価格帯にギャップがないか確認する」

今回は特定の商品分類（品種）「ミネラルウォーター」に絞って価格帯にギャップがないか確認します。

〔グラフ設定〕を以下に設定します。

- ・価格帯レンジ設定→無効
- ・絞込設定（商品分類）→ミネラルウォーターのみ選択

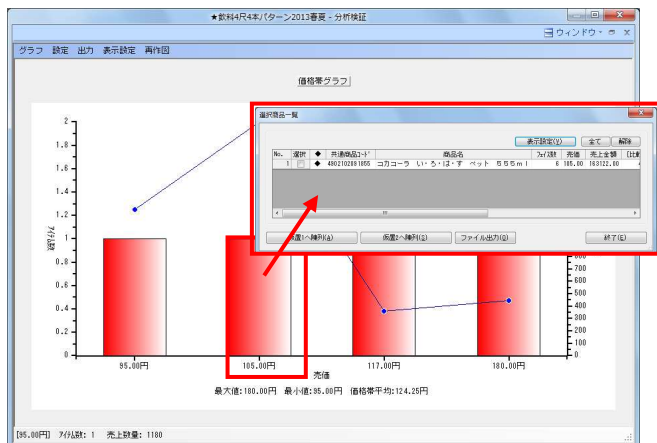
これで「ミネラルウォーター」だけを対象にした価格帯グラフを作成することができます。



11. 棚割計画時に決めた価格帯と、実際にお客様が購入した価格帯（＝買物客が支持している価格帯）にギャップがないか確認できます。

お客様からの支持が高い価格帯の商品の陳列ボリューム（フェイス数、在庫数）や、品揃え（アイテム数）が少ない場合、棚割の意図とお客様のニーズが合っていないということがわかるため、陳列ボリュームや採用商品の見直しが必要です。

また価格帯が細かすぎる場合は、お客様が店頭で比較購買する際に商品の違いがわかりづらく、選びにくくなるため注意してください。



12. 課題となる品種の棒グラフをクリックすると、選択した分類に含まれる商品を確認できます。  
確認した商品を仮置情報へ陳列、またはファイルに出力できるので、フェイス数を増やしたい商品を仮置きに陳列する、フェイス数を減らす、またはカットしたい商品をExcelの一覧表で出力というようなことも可能です。

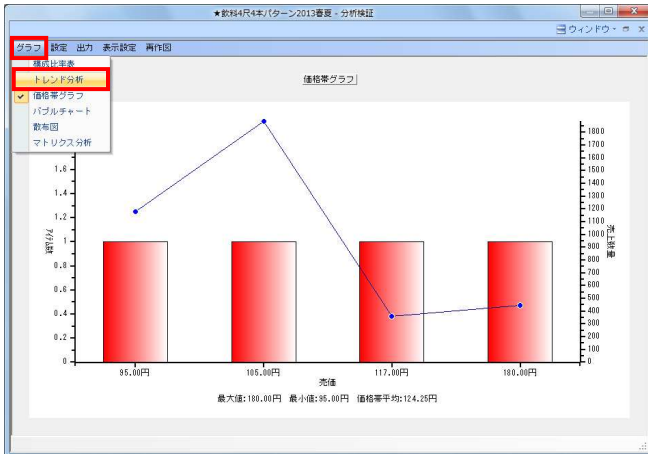
ここまでで紹介した分析以外にも品揃えの検討に使用できる機能があります。

## ■ トレンド分析

トレンド分析では、指定した期間の売上の動向を、商品分類/階層分類単位の積上げ棒グラフで確認できます。グラフをクリックすることで選択した分類をピックアップして、上昇トレンドにあるのか下降トレンドにあるのか今後の動きを予測して品揃えを検討できます。

### 注意

トレンド分析を実行するためには「週」または「月」単位で売上情報を登録し、[棚割操作] - [分析設定] で分析期間を指定しておく必要があります

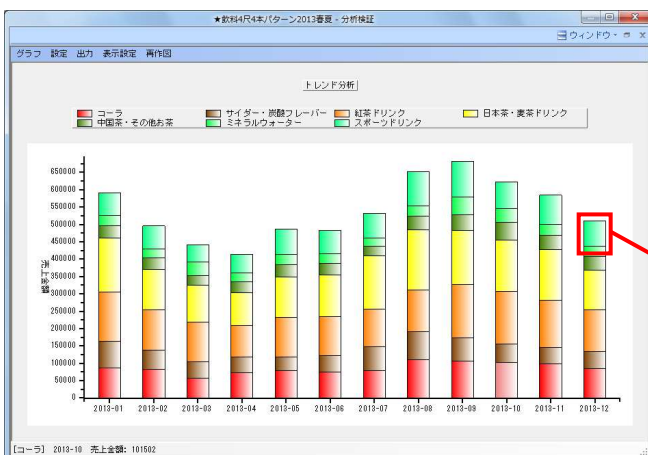


1. メニューバー「グラフ」より「トレンド分析」を選択します。

設定 - 「グラフ設定」をクリックします。

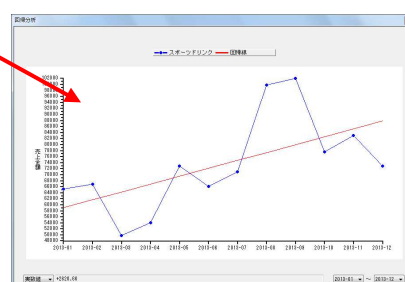
2. 「出力値」に分析したい分類、「出力値（縦軸）」に売上の項目を選択して、「設定」をクリックします。

今回は出力値に「品種」、出力値（縦軸）に「売上金額」を選択してグラフを表示します。

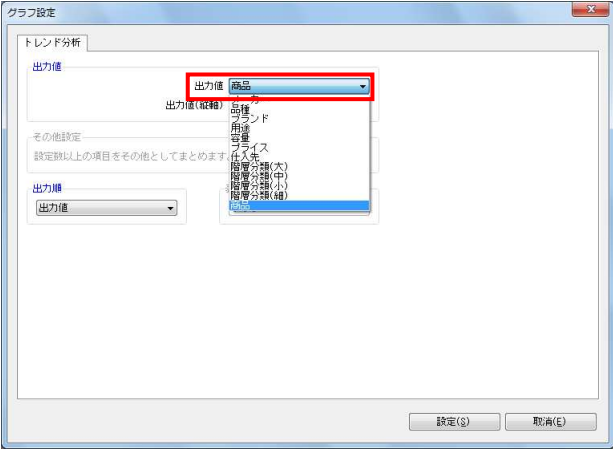


3. 12ヶ月分の積上げ棒グラフが表示されます。月々の売上がどう推移しているのかを確認できます。

グラフ内の確認したい分類をクリックすると、選択した分類のみの売上の動向と回帰線が確認できるので、その分類が上昇トレンドなのか、下降トレンドなのかを手軽に確認できます。





[illegible]

4. また「グラフ設定」で「出力値」を「商品」にすると、単品単位の売上推移を確認できます。

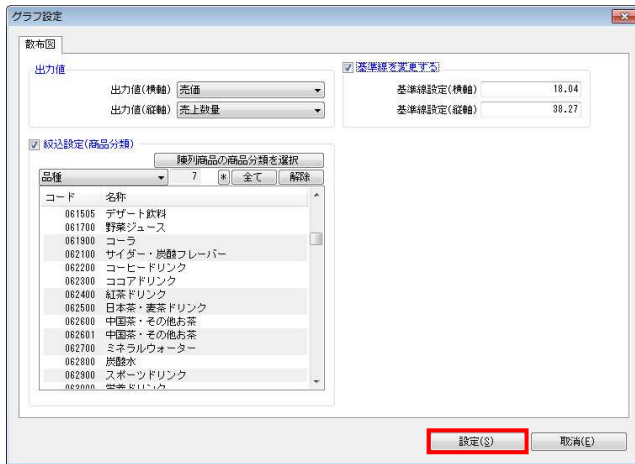
※出力値に「商品」を選択した場合は、グラフ表示・数値表示に関わらず、数値での表示となります。

5. 期間別の単品の売上数量/売上金額/粗利額（「出力値（縦軸）」に選択したいいずれか1つ）を1画面で確認することができます。

## ■ 散布図

散布図では商品単品を点で表し、「縦軸」「横軸」の2軸上の分布で商品の位置付けを確認できます。

出力値には様々な項目を選択できるため、組み合わせによりどの商品がどのくらい売上に貢献しているか、どの価格帯の商品ボリュームが多いか、売上に貢献しているか否かなどを確認することもできます。



1. メニューバー「グラフ」より「散布図」を選択します。  
設定→「グラフ設定」をクリックします。

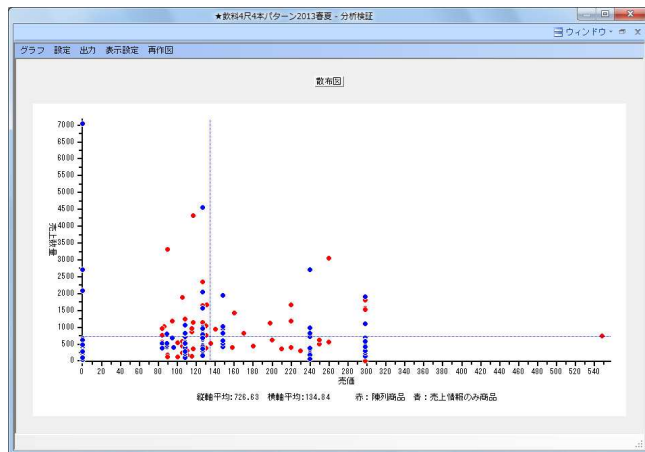
「出力値(縦軸)」「出力値(横軸)」にそれぞれ確認したい項目を選択します。

「出力値(縦軸)」に「売価」

「出力値(横軸)」に「売上数量」を選択します。

「絞込設定(商品分類)」で確認する商品分類を絞り込むこともできます。有効にして、「[陳列商品の商品分類を選択]」をクリックして陳列している品種のみ選択します。

[設定] をクリックします。

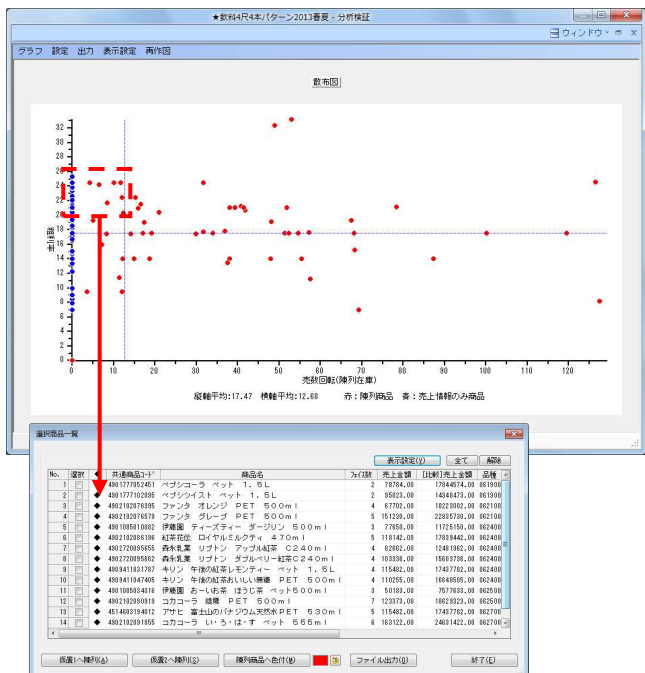


2. グラフに表示される点1つ1つが商品を示しており、赤い点は棚に陳列している商品、青い点は棚には陳列していないが売上情報には存在している商品を表しています。  
価格の分布を確認すると同時に、どの価格帯が売上に貢献しているかを確認できます。

※売上情報のみの商品を分析対象にする方法はP.6を参照してください。

青い破線は縦軸、横軸それぞれの平均を表しています。

平均ではなく基準値として任意の数値を設定する場合は、「グラフ設定」内にて任意の数値を入力して変更します。  
「基準線を変更する」を有効にして、(横軸)と(縦軸)にそれぞれ任意の数値を入力します。



3. たとえば「出力値(縦軸)：粗利率」、  
「出力値(横軸)：売数回転(陳列在庫)」に設定します。  
この設定であれば、上にいくにつれて回転数が高くなり、右にいくにつれて粗利率が高く小売店への貢献度が高い、という見方ができます。

グラフの左下に位置する回転数、粗利率がともによくない商品のフェイス数を減らす代わりに、右上に位置する回転数、粗利率がともによい商品のフェイス数を増やす、といった検討が可能です。

点をクリック、もしくはドラッグ(範囲選択)すると、対象商品の一覧が確認できます。

一覧で確認した商品を仮置情報へ陳列、またはファイルに出力できるので、フェイス数を増やしたい商品を仮置きに陳列する、フェイス数を減らす、またはカットしたい商品をExcelの一覧表で出力ということも可能です。

「陳列商品へ色付」の機能を使って、棚割上に並んでいる任意の商品に色を付けることも可能です。

## ■ マトリクス分析

マトリクス分析では、分類や売価など縦横軸それぞれ2項目、最大4項目でクロスさせた結果を表示することにより、品揃えの状況を詳細に把握できます。



1. メニューバー「グラフ」より「マトリクス分析」を選択します。

設定「グラフ設定」をクリックします。

「出力値（縦軸）」「出力値（横軸）」にそれぞれ確認したい項目を選択します。

出力項目のプルダウンメニューで「商品単位」または「商品分類単位」を選択して、一覧に表示したい項目を選択します。

「設定」をクリックします。

商品名	十円	売上数量	売上金額
花王 ヘルシアパークリング 500ml	0.00	489.00	86,292.00
カルピス カルピスソーダ ベット 500ml	3.30	529.00	58,031.00
カルピス カルピスソーダ 1.5L	0.00	982.00	174,793.00
キリン キリンフリー 500ml	0.00	109.00	12,606.00
キリン キリンフリー 500ml x 6	0.00	22.00	13,940.00
サントリー C.C. レモンゼロ ベット 500ml	1.89	135.00	14,239.00
サントリー C.C. レモン ベット 1.5L	0.00	910.00	57,423.00
サントリー C.C. レモン 手売り用 500ml	0.00	295.00	25,240.00
サントリー オールフリー 500ml	0.00	181.00	24,989.00
ファンタ グレープ PET 500ml	3.45	1,840.00	151,290.00
ファンタ オレンジ PET 500ml	2.76	717.00	67,782.00
ファンタ オレンジ PET 1.5L	2.76	1,150.00	108,293.00
ファンタ オレンジ PET 1.5L	0.00	715.00	122,086.00
ファンタ オレンジ PET 1.5L	0.00	180.00	25,084.00
ファンタ オレンジ PET 1.5L	0.00	913.00	146,429.00

2. 設定した条件ごとの品揃えを一覧で確認できるため、品揃え過多や不足がないか確認できます。

3. マトリクス分析に限らず、分析検証の結果はメニューバー「出力」よりクリップボードや画像ファイル、Excel出力などが可能です。

詳細はP. 17を参照してください。

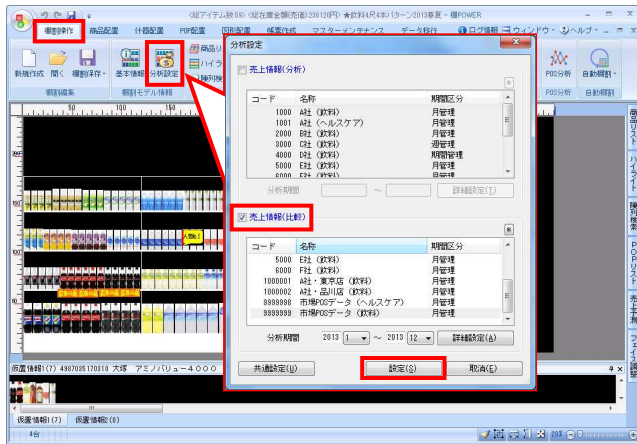


## ■ 商品リスト [比較]

分析検証で行なう分析のほかにも、棚割の編集に品揃えを検討できる機能もあります。

ここでは売上情報を商品リストに反映させて、取扱商品を検討しながら商品を陳列する方法を説明します。

※この機能を使用するためにはカテゴリーグループを作成し、基本情報で設定をしている必要があります。

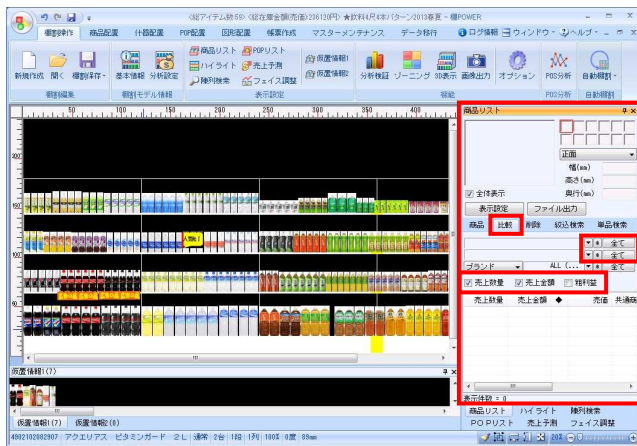


1. 「棚割操作」－「分析設定」を選択します。

「売上情報（比較）」を有効にして、一覧から売上情報を選択して「設定」をクリックします。

### 参考

分析期間を設定することで特定期間の売上情報だけを使用できます  
設定しない場合は全登録期間を使用します



2. 商品リストの「比較」タブを選択します。

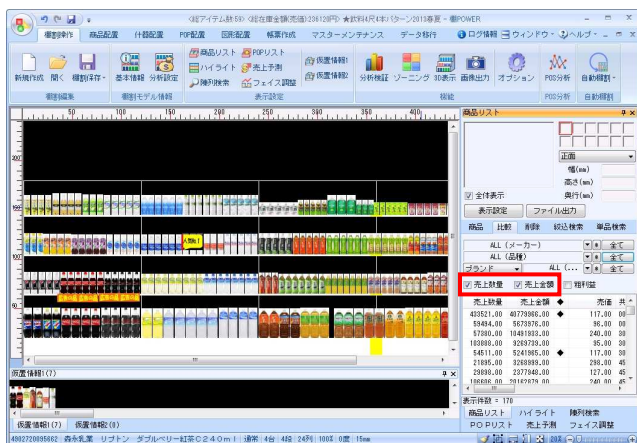
「売上数量」「売上金額」「粗利益」から表示したい項目を有効にします。

表示したい分類をそれぞれ「第1絞込分類」「第2絞込分類」のプルダウンメニューから選択します。

「全て」を押すと、全ての分類が表示されます。

### 参考

分析設定で「売上情報（比較）」が未設定の場合には分析設定ボタンが表示されています。未設定の場合には、その分析設定ボタンより「売上情報（比較）」を有効にして、一覧から売上情報を選択して設定してください。



3. 「売上数量」や「売上金額」の項目名を選択すると、昇順、降順に並び替えが可能です。

たとえば市場のPOSデータを使用した場合、◆マークで既に棚に陳列している商品を確認できるため、市場で売れ筋の商品の陳列漏れや取り扱い漏れがないか確認できます。  
商品リスト内の「①」は仮置情報1、「②」は仮置情報2に陳列されている商品であることを表しています。

### 【表示設定】

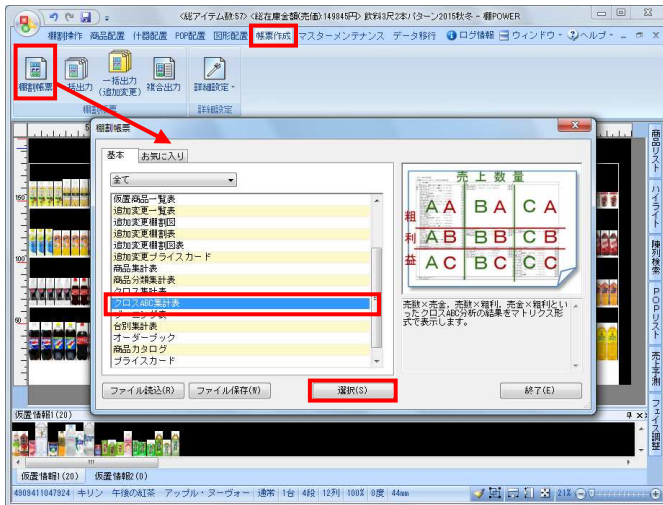
商品リストに表示する項目を選択できます

### 【ファイル出力】

商品リストに表示している商品をExcel ファイルで出力できます

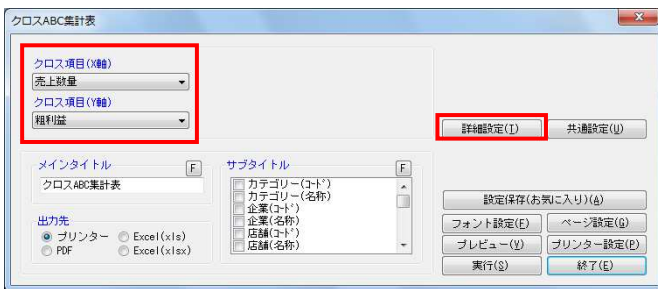
## ■ クロスABC集計表

クロスABC集計表では、棚割モデルに陳列している商品を、「売上数量と売上金額」、「粗利と売上金額」など、2つの切り口からABC分析を同時に行ない、結果をマトリクス形式で出力できます。  
行と列の交差した個所がその商品の位置取りとなるため、棚割全体のバランスもよくわかります。



1. 「帳票作成」－「棚割帳票」をクリックします。

「クロスABC集計表」を選択して、「選択」をクリックします。



2. 「クロス項目(X軸)」「クロス項目(Y軸)」にそれぞれにクロスさせたい項目を選択します。

今回は「クロス項目(X軸)：売上数量」、「クロス項目(Y軸)：粗利益」と設定します。

### 【詳細設定】

#### 【陳列商品に◆記号を付加する】

有効にすると、棚割モデルに陳列のある商品に◆記号が表記されます

#### 【出力項目(コード)】

出力する商品のコードを選択できます

#### 【出力項目(名称)】

出力する商品の名称を選択できます

「プレビュー」をクリックして帳票を確認します。

クロスABC集計表  
棚割モデル名称:★秋4尺4寸パターン2018春夏 作成者氏名:Iconcept 総アイテム数:59 総フェイス数:252 総在庫金額:¥236,120

	売上数量	粗利益	
売上数量	AA	AB	AC
粗利益	BA	BB	BC
	CA	CB	CC

3. たとえば粗利益がAランクで売上数量がBランクの商品に関しては、販売数を増やしてAAランクに押し上げたい育成商品と言えます。  
そのためにフェイス数を増やす、より消費者の目に留まりやすい位置に陳列を変更する、POPを貼るなどの対応が考えられます。

「出力先」を選択して、「実行」をクリックすると出力が可能です。

「クロスABC集計表」は、棚割モデルを閉じた状態で「帳票作成」－「一括出力」から複数の棚割モデルを対象に、集計結果を出力することもできます。

